

調査の概要

1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 相模原市全域
- (2) 調査対象 18歳以上の相模原市在住者
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (5) 調査方法 郵送調査法（郵送に準じた配付 - 郵送回収、はがきによる督促1回）
- (6) 調査期間 令和2年6月26日～7月16日
- (7) 調査機関 株式会社エスピー研
- (8) 有効回収数（率） 1,588（52.9%）

3. 調査の内容

令和2年度 市政に関する世論調査は、8の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 まちづくりについて	問1～問3
2 広報紙について	問4～問6
3 <small>エスディー・ジーズ</small> SDGsについて	問7～問9
4 マイナンバーカードについて	問10
5 防災情報の発信について	問11～問13
6 スポーツの観戦や支援について	問14～問15
7 建物と地震について	問16～問19
8 自転車の安全利用について	問20～問24
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5 . 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	305	172	56.4%
	大沢	136	68	50.0%
	城山	33	17	51.5%
	津久井	99	50	50.5%
	相模湖	99	57	57.6%
	藤野	32	17	53.1%
	緑区計	704	381	54.1%
中央区	小山	88	32	36.4%
	清新	123	51	41.5%
	横山	61	38	62.3%
	中央	150	134	89.3%
	星が丘	76	28	36.8%
	光が丘	115	49	42.6%
	大野北	252	101	40.1%
	田名	128	70	54.7%
	上溝	144	80	55.6%
	中央区計	1,137	583	51.3%
南区	大野中	262	120	45.8%
	大野南	326	186	57.1%
	麻溝	72	37	51.4%
	新磯	56	31	55.4%
	相模台	188	89	47.3%
	相武台	82	36	43.9%
	東林	173	104	60.1%
	南区計	1,159	603	52.0%
地区不明		0	21	-
合計		3,000	1,588	52.9%

6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、()内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,588である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.51以内(47.49%～52.51%)とみることができる。

< 標準誤差の表 >

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,588	±1.51	±2.01	±2.30	±2.46	±2.51

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率}(1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。